

授業科目等の概要																											
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 1年																										
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。																										
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期																	
種別	総論					授業方法	講義	○	演習	△	実習																
授業科目	服飾造形論 I					授業時間数	前期	15	後期	15	計 30																
担当教員	江端 由恵					職業実践専門課程：企業との連携																					
※実務家教員	○	洋服リメイク企業にて縫製、接客、運営の実務経験を活かし、エンドユーザーの求める衣服とは何か、他者が求めるものづくりの大切さを教授する。																									
資格検定																											
授業概要	衣服制作において必要な用具の使用方法や縫製用具の基礎知識を身につける。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。さらには衣服制作において必要な素材の扱い方や付属材料、裁断縫製に関する知識を身につける。																										
学習成果	① 裁断・縫製の基礎知識を身につける。 ② 原型と付属材料の扱い方を理解する。 ③ 衣服制作の流れ、裁断、縫製の基礎知識を身につける。 ※ 裁断・縫製の基礎知識を身につける。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		90	%	2	提出物/期限遵守		%															
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座① ●KFDオリジナルプリント配布 ●ボディ、ボディライン、ソーイングセット																										

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	衣服制作のための用具と名称及び使用方法、ミシン・アイロン・特殊ミシンの基礎知識	用具を知り、ミシン、アイロン等を知り、使いこなせるようになる。
2	3-4	裁断・縫製の基礎知識(地直し、表裏の見分け方、布幅)、針と糸の種類と用途	生地を知り、裁断、縫製の基礎知識を学ぶ。また、素材に合った針、糸の選び方、種類の学習。
3	5-6	衣服制作のための人体計測	衣服制作のために必要な採寸を学習。
4	7-8	原型について、人体の方位(ボディライン入れ)	原型とは、部位の名称。ボディの基礎知識を学ぶ。原型と合わせて各々の部位にボディラインを入れる。平面製図、立体製図、また衣服制作の基本、基準となる人体を知る。
5	9-10	人体の方位(ボディライン入れ)、副資材(ファスナー・鈕・前金・ホック)	平面製図、立体製図、また衣服制作の基本、基準となる人体を知る。ソーイングと連動した副資材を知る。
6	11-12	マーキング、柄合わせについて	裁断するための基礎知識の学習。マーキングとは何かを学び、柄合わせに必要な知識の学習。
7	13-14	仕様書、工程表について(見方・基礎)	仕様書、工程表とは何か、また必要性を学び、実際に書いてみる。
8	15	まとめ	前編で学んだことのまとめ、復習をする。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	トワルの基礎知識(ピン打ち・型出し・修正方法)、原型補正	型出しの修正方法を学ぶ。また、自分のサイズ、体型に合った原型作り、及び精正。
2	3-4	副資材(肩パットの役割・芯地・伸び止めテープ)、ウール地の扱いについて	ジャケット製作のための副資材の基礎知識の学習。ウール素材について学ぶ。
3	5-6	芯地と裏地の種類と用途、目的と役割	芯地と裏地の基礎知識を学ぶ。
4	7-8	仮縫い補正について	仮縫いの基礎知識を学ぶ。
5	9-10	縫製工程表の書き方1	企画書について学び、効率を考えた縫製工程表作り。
6	11-12	縫製工程表の書き方2、縫製仕様書の書き方1	縫製工程表まとめ。各メーカーの縫製仕様書、フォーマットの見方を学び、縫製仕様書下書き。
7	13-14	縫製仕様書の書き方2	縫製仕様書まとめ。
8	15	ファイル整理、まとめ	企画書整理。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		前期では衣服制作全般の基礎知識を学習、後期ではウール素材で裏地付きスーツを作るための知識、また、その企画書作りが主になるが、就職を踏まえ、どの職種に就くにしても基本はしっかりと学ぶ必要がある。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションテクニカル科	1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。		
分類	必修	○ 選択	配当年次 1 年
種別	総論	授業方法 講義 ○ 演習 ○ 実習	
授業科目	ファッション史	授業時間数 前期 10 後期	計 10
担当教員	溝口 希弥子	職業実践専門課程：企業との連携	
※実務家教員			
資格検定		必修	選択
授業概要	ファッションはそれぞれの時代の政治・経済・文化と密接に関連しているという事を、「服装の歴史」を中心に理解を深める。衣服の起源から、古代・中世・近代・現代までの流れを理解することで、「繰り返す歴史」のありようを理解し、ファッションが私たちの生活にどのように影響を与えていたのかを考える。また次代のファッションを形作るのは自分たちである、という認識を持てるようにしたい。		
学習成果	① 歴史を知る楽しさや意義を感じてもらう。 ② ファッションは繰り返す、という流れを理解。 ③ 自分の興味ある分野への知識を広げてもらう。 ※ ファッションを創り上げる基礎となる服装史の流れを理解する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度
使用教材 用材	●文化ファッション大系 服飾造形講座① ●KFDオリジナルプリント配布 ●文化学園服飾博物館刊 ヨーロピアンモード		
前 期 授 業 計 画 (4月-9月)		授業習熟度のねらいまたは、準備学習	
1	1-2	導入、古代（エジプト・ローマ・ギリシャ）、中世（ビザンティン・ゴシック・ルネサンス）	服装史の発展、殷の役割、変遷の概要を理解する。
2	3-4	近世（18-19世紀市民革命と産業革命）、第1～第2帝政時代	政治、経済、文化が密接につながっていることを実感させる。
3	5-6	現代（1900～1910年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
4	7-8	現代（1920～1950年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
5	9-10	現代（1960～1990年代）と総論、まとめテスト実施	これから自分たちが生み出していくファッションの源泉を理解する。
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「ファッション史」という視点で読む事を推奨する。講義内容に対しても積極的に質問をし、自己で理解することが望ましい。課題は、提出期限を厳守すること。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 1年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。												
分類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1 年	学期	通年		前期	<input type="radio"/>	後期	
種別	総論						授業方法	講義	<input type="radio"/>	演習		実習	
授業科目	アパレル商品知識						授業時間数	前期	15	後期		計	15
担当教員	松延 直明						職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員													
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会主催：ファッション販売能力検定3級										必修	<input type="radio"/>	選択
授業概要	ファッション販売能力検定3級の商品知識を中心にファッションアイテムの知識を身に付ける。シルエット、ディテール、名称などの基本知識だけではなく、そのアイテムが生まれた時代背景などの関連知識から学ぶことでより造詣を深め、企画、販売などアパレルのどの分野においても通用するアイテム知識を習得する。												
学習成果	① 基本アイテムの知識習得。 ② ディテールの知識習得。 ③ サイズ表記（JIS規格）の知識習得。 ※ 衣服のデザイン知識とサイズ知識（JIS規格）の習得。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果		70	%	
使用教材	●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売3 ●KFDオリジナルプリント配布				2 提出物/期限遵守			2	3 独創性/習熟度		30	%	

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	商品分類とサイズ知識	基本的商品分類を理解し、JIS規格をもとにしたサイズ表記の読み取りができるように進める。
2	3-4	スカートの知識、パンツの知識	主にボトムスに関するアイテム名と丈の名称といった基礎知識を基本的デザインをメインとして理解する。
3	5-6	シャツブラウスの知識、カラーの知識	シャツの基本アイテム名とディテール名を理解しつつ、カラーの種類も基本デザインを中心として理解する。
4	7-8	ワンピースの知識、シルエットの知識	ワンピースのアイテム名を押さえつつ、シルエットを理解することでデザイン面においても必要な知識を得る。
5	9-10	カット＆ソーンの知識、インナーウェアの知識	カット＆ソーンとインナーウェアの特殊性を理解する。
6	11-12	ニットウェア、ネックラインの知識	ニットウェアの特殊性を理解し、またそれにつながるディテールとしてネックラインの種類を理解する。
7	13-14	ジャケットの知識、コートの知識	アウターに関する知識をジャケット・コートと合わせて理解する。デザインだけではなく機能性についても触れる。
8	15	服飾雑貨知識	財、バッグ、アクセサリーといったアパレル小物の知識を取り入れる。基本的なものに絞り、売り場における知識として役立てる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		各学生が授業ごとにアイテムサンプルを持参し、手元でアイテムサンプルを見ながら授業を受ける形が望ましい。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションテクニカル科	1年	
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。			
分類	必修	○ 選択	配当年次 1年	
種別	総論			
授業科目	アパレル素材 I			
担当教員	山崎 菜穂子			
※実務家教員	○ 洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違いを触しながら学び、素材の大切さを伝えることができる。			
資格検定				
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品の管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に取り扱う素材を扱いながら、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。			
学習成果	① 繊維の種類について理解する。 ② 織り、編み、加工について理解する。 ③ 繊維取り扱い表示記号について理解する。 ※ テキスタイルの使い方を提案できるスキルの習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 60 % 2 提出物/期限遵守 10 % 3 独創性/習熟度 10 % 4 意欲・授業態度 20 %	
使用教材	●テキスタイルハンドブック ●テキスタイル辞典 ●KFDオリジナルプリント配布			
前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				
1	1-2	アパレル素材とは、繊維とは、繊維の種類（天然繊維1）（プリントNo. 1-5）	授業習熟度のねらいまたは、準備学習 アパレル素材とは何かその重要性を説き、天然繊維の綿、麻について知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。	
2	3-4	繊維の種類（天然繊維2、化学繊維1）（プリントNo. 6-10）	天然繊維の毛、綿、化学繊維のレーヨン、ポリエステル、キュプラについて知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。	
3	5-6	繊維の種類（化学繊維2）（プリントNo. 11-14）	化学繊維のアセテート、プロミックス、ポリエステル、ナイロン、ポリウレタン、アクリルについて知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。	
4	7-8	繊維の特徴のまとめ（プリントNo. 15） 小テスト	これまで学習したこと、空替にテキストを埋め込む形で更に理解を深め、資料として残るようにまとめる。	
5	9-10	糸とは布地とは（織物1）（プリントNo. 16-19） 小テスト（織物1）	スパン糸、フィラメント糸、甘撚糸、強撚糸など、糸の構造を知り、布地になるとどうなるか実際の糸やテキスタイルを触り理解を進める。	
6	11-12	布地とは（織物2）（プリントNo. 20-21） 小テスト（織物2）	平織り、綾織りについて構造を知り、演習してすることで更に理解を深める。	
7	13-14	布地とは（織物3）（プリントNo. 22） 小テスト（織物3）	朱子織りについて構造を知り、演習してすることで更に理解を深める。	
8	15-16	布地とは（編み物）、布地とは（レース、網地、ネット）（プリントNo. 23-26）	編み（ニット）について構造を知り、その他のレース、網地、ネットについても理解を進める。	
9	17-18	布地とは（加工）、素材感性1（風合い）（プリントNo. 27-30）	布地の加工について理解を進め実際に手に取り確かめる。また、風合いと材質感は感性軸に当てはめながら確認をする。	
10	19-20	柄（プリントNo. 31-32）	基本的な柄を配布プリントや実際のテキスタイルを見て理解を進める。	
11	21-22	洗濯表示、染み抜き、ドライクリーニング、繊維取り扱い表示記号 小テスト	染みについて理解をし、どう対処すべきかを学ぶ。また、取り扱い表示記号について理解を進めるが、古着も普及しているため旧JISについても学ぶ。各自の服に付いているタグも確認してみる。	
12	23-24	素材感性2（イメージ、風合い） 小テスト	3大感性をもとに、イメージにあった素材を連動させ、理解を深める。これまで習得してきた内容が活かされる。	
13	25-26	アパレル素材論まとめ（まとめプリントNo. 1-8）	これまでの学習の成果をまとめプリントを通して復習し、再度確認をする。	
14	27-28	アパレル素材論まとめ解答（まとめプリントNo. 1-8）	これまでの学習の成果をまとめプリントを通して復習し、再度確認をする。	
15	29-30	テスト対策+検定問題	プリントリヤノートの整理・試験対策をする。また、検定に向けて素材に関する練習問題を解く。	
その他 (授業に際しての注意点)	実際にたくさんの生地を扱うことで手触り、風合いを感じ、天然繊維・合成繊維を見分けられるまでになることが望ましい。			

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		1年						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。										
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択	配当年次	1 年						
種 別	総論			授業方法	講義 <input checked="" type="radio"/>						
授業科目	染色 I			授業時間数	前期 8 後期 <input type="radio"/>						
担当教員	江端 由恵			職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋服リメイク企業にて縫製、接客、運営の実務経験を活かし、エンドユーザの求める衣服とは何か、他者が求めるものづくりの大切さを教授していく。									
資格検定											
授業概要	染色する為の基礎的な知識を習得し、様々な素材や染料の違いを実際に染色して確かめる。										
学習成果	① 染色に興味を持つ。 ② 天然染料に興味を持つ。 ③ 各素材に適合する材料を見つける。 ※ 色彩・素材の授業と連動し、素材表現に幅を広げる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	80 % 10 % 10 % 10 %						
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾関連講座① ●KFDオリジナルプリント配布 ●12~15種類の白素材・染料										

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	染色とは(天然染料・合成染料について)	染色についての基礎知識。天然染料、合成染料の違いを理解する。天然染料、合成染料の基礎知識。
2	3-4	コールダイホット・オール染料染色・シリアス染料染色	各染料で12~15種類の素材を染めてみる。
3	5-6	デルクス染料染色・ホットダイP-100染料染色	各染料で12~15種類の素材を染めてみる。
4	7-8	ポリロン染料染色・転写・まとめ	各染料で12~15種類の素材を染めてみる。ポリエステル素材に転写してみる。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	集中講義・2年次の卒業記念展に知識を活かす。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科		1年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。						
分類	必修	○	選択	配当年次	1 年		
種別	デザイン			授業方法	講義 △ 演習 △ 実習 ○		
授業科目	ドローイング I			授業時間数	前期 30 後期 計 30		
担当教員	舞田 章子			職業実践専門課程：企業との連携			
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている。ドローイングの基礎力を伝授する。					
資格検定							
					必修 選択		

人体のプロポーションを理解し基礎力につけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、主に平面画を習得し、縫製仕様書必要な基礎的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。

学習成果	① 人体のプロポーションを理解する。 ② ボディバランスを理解し、様々なポージングの描き方を習得する。 ③ ドローイングに必要な画材を使用し、基本的な着彩方法を学ぶ。 ※ 基礎能力を固めデザインを伝える事が出来るようにする。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	定期試験結果	%
			提出物/期限遵守	%
1	定期試験結果	10	10	%
2	提出物/期限遵守	80	80	%
3	独創性/習熟度	10	10	%
4	意欲・授業態度	10	10	%

使 教 用 材	<ul style="list-style-type: none">● ドローイングセット● KFDオリジナル実習プリント配布● コレクション雑誌
------------------	---

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	線の練習	用具の説明。鉛筆を使用し線に慣れる。
2	3-4	人体のバランスの法則	人体のバランスを8頭身を理解する。
3	5-6	ボディの描き方（女性）	ヌードボディを描き、人体のプロポーションを理解する。
4	7-8	スカートの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方、構造線の描き方を学ぶ。
5	9-10	ブラウスの平面画の描き方1	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
6	11-12	ブラウスの平面画の描き方2	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
7	13-14	シャツの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
8	15-16	衿の各種の平面画の描き方	仕様書に必要な、襟ぐりの平面画の描き方を学ぶ。
9	17-18	パンツの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方を学ぶ。
10	19-20	ジャケットの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方を学ぶ。
11	21-22	指示書の描き方1	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
12	23-24	指示書の描き方2	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
13	25-26	指示書の描き方3	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
14	27-28	指示書の描き方4	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
15	29-30	ファイル整理／まとめ	ファイリングし、復習も兼ねて見直す。

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		1年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、パターンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。						
分 類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択	配当年次	1 年		
種 別	デザイン		授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/> 演習 <input checked="" type="radio"/> 実習		
授業科目	ファッショントekニカル科 I		授業時間数	前期 30 後期	計 30		
担当教員	深田 勝久		職業実践専門課程：企業との連携				
※実務家教員	<input checked="" type="radio"/>	アドバタイジングデザイン（広告・商業・店舗デザイン）業務で培ってきた、実務的、実践的カラーコーディネートを、基礎知識と共に応用的に使えるよう演習を通して「色を見る・提案出来るスキル」を伝播する事を狙いとする。また、日本ファッショントekニカル科協会ファッショントekニカル科検定問題作問委員でもある。					
資格検定	一般財団法人 日本ファッショントekニカル科協会：ファッショントekニカル科検定3級				必修 <input checked="" type="radio"/> 選択		
授業概要	ファッショントekニカル科の各職種で必要とされるスキル「色=カラーコーディネート」。1学年はその基礎知識として JISに準拠しながら、業界での色の役割、物理的・心理的側面での色の効果と配色の理論を習得する。カラーコーディネート力のスキルを、配色実習（カラーカード）で実践的（実験的）な演習を繰り返すことにより「色を提案出来るスキル」を習得する事を目標とする。						
学習成果	① 色の効果、役割を理解する。 ② 色を見分け、色の三属性を理解し、マンセル値を読むスキルを取得。 ③ 色の特性を理解し、配色の効果を表現するスキルを取得。 ※ 色の使い方を提案できるスキルの習得。		成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	% 60 % 20 % 20 %		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●一般財団法人 日本ファッショントekニカル科協会：ファッショントekニカル科 I ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●JIS BASIC COLOR140 						

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	No.01・生活における色彩の働き1(色の価値観) & No.03・視認性付録 No.04 Munsell BASIC COLOR 140 for JIS 1	色の知覚的効果である「視認性」、生活中でも広く使われている。仕事をする上で必要な「視認性」を一覧にする。日本はJIS規格が採用されており、基本カラーチャート(Munsell BASIC COLOR JIS140色相表)を作成し手元に置くことで色を一覧出来、配色の検討が出来やすいよう準備する。
2	3-4	No.02・生活における色彩の働き2(色の価値観) & No.03・視認性付録 No.04・Munsell BASIC COLOR 140 for JIS 2	
3	5-6	No.03・色彩の体系 色の三属性: 色相(Hue)	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相=色み」の基本を色みを見分けることを体感し理解を深める。
4	7-8		
5	9-10	No.04・色彩の体系 色の三属性: 明度 (Value)	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「明度=明るさの違い」の基本を色の明るさを体感し理解を深める。
6	11-12		
7	13-14	No.05・色彩の体系 色の三属性: 彩度 (Chroma)	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度=鮮やかさの違い」の基本を色の強さを体感し理解を深める。
8	15-16		
9	17-18	No.06・色彩の体系 色の三属性: 色調(Tone)	色を感覚的に利用する上で、「Hue&Tone」は必須である。形式的にトーンの配置とトーンのイメージを通して理解を深める。
10	19-20		
11	21-22	No.7・色彩理論-基礎: 色彩と心理(色の見え: 対比現象)①	隣接された色がどのように見えるのか、色彩心理の「同化現象」の観点から、色の見え方の違いについて学ぶ。また「対比/同化」を知ることは、デザインする上で必要な知識となる。
12	23-24	No.8・色彩理論-基礎: 色彩と心理(色の見え: 対比現象)②	
13	25-26	No.9・色相環配色(同一色相・類似色相・対照色相・補色色相)	配色の基本でもある色相環を基準にした配色効果を、トーンのイメージも併せながら実験を交えながら学ぶ。
14	27-28		
15	29-30	No.10・トーンを基準とした配色 (Hue&Tone)	配色の応用でもあるトーンを基準にした「まとまり感」「きわ立ち感」等の配色をマトリクス表を絡めて体感し理解する。
その他 (授業に際しての注意点)		○授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「色」という視点で見読する事を推奨する。講義内容に対しても、わからない事は積極的に質問をし、各自で理解し実践に取り組むことが望ましい。 ○授業毎に配布される課題は、提出期限を厳守すること。また、採点後、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、なぜなぜかという問い合わせに対して、積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材(配色カード)を忘れる受講困難になるので注意が必要である。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。				
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年
種 別	企画		授業方法	講義	△ 演習 ○ 実習
授業科目	プロデュースショーⅠ		授業時間数	前期	後期 8 計 8
担当教員	野田部 寛之		就業実践専門課程：企業との連携		
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッショントekニカル科技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。			
資格検定					必修 選択
授業概要	前期で学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメーキング、縫製技術を基に、卒業記念展に向けた作品制作のアイデア発想トレーニングやフォルムの研究を行い、テーマ決めまでを行う。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、2年次の作品制作に繋げていくことを目的とする。				
学習成果	① テキスタイルとシルエット力を表現する力の習得。 ② アイデア発想の方法を理解する。 ③ テーマを基に、グループワークでのコンセプト設計の習得。 ※ 自由な発想でデザイン出来る表現力を身に付ける。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 獨創性/習熟度 4 意欲・授業態度	20 % 60 % 20 %	
使 教 用 材	●スタイリスト&コーディネートの条件				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	アイデア発想	卒業記念展の作品制作に向けて、デザインの基となるアイデアを多角的な視点で捉えられるように、トレンド、歴史、美術、芸術、手工芸等を加味しながらアイデアトレーニングを行う。
2	2	フォルムの研究	卒業記念展の作品制作に向けて、フォルムの研究を行いデータを自由にデザインへと落とし込む方法を習得する。また、建築や美術に見られる造形の理解を深める。
3	3	柄について	卒業記念展の作品制作に向けて、様々な国や地域の柄をリサーチしながらテキスタイルの基となる柄域の理解を深める。
4	4	手工芸について	卒業記念展の作品制作に向けて、様々な国や地域の手工芸をリサーチしながらテキスタイル、デザインの基となる技術の理解を深める。
5	5	8大感性について	卒業記念展の作品制作に向けて、感性別に理解を進めながら、イメージの方向性を決めていく。
6	6	グルーピング	卒業記念展の作品制作に向けて、感性毎にグループを作り、それそれが特徴をもったチームになるように分けていく。
7	7	テーマ設定、コンセプト設定	卒業記念展の作品制作に向けて、チームで設定した感性を基に、テーマを決めていく。また、設定したテーマを基に、トレンドや世界情勢等を今のファッションに取り込みながらコンセプトを設定する。
8	8	テキスタイルについて、まとめ	卒業記念展の作品制作に向けて、設定したテーマ、コンセプトを基に段階となる素材のリサーチを行いながらクリエイティブなテキスタイル制作を行っていく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、トレンド、世界情勢等の情報に触れながらの創作活動を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら出来ることが望ましい。ほかに、グループでのディスカッションを行いチームとしてプロジェクトを遂行していくことを推奨する。2年次の卒業記念展の作品制作に繋げていく。		

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。				
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年
種 別	服飾造形		授業方法	講義	○ 演習 ○ 実習 ○
授業科目	パターンメーティング I		授業時間数	前期 142 後期 157	計 299
担当教員	江端 由恵		職業実践専門課程：企業との連携		
※実務家教員	○	洋服リメイク企業にて縫製、接客、運営の実務経験を活かし、エンドユーザーの求める衣服とは何か、他者が求めるものづくりの大切さを教授する。			
資格検定	一般財団法人日本ファッショントekニカル科：パターンメーティング技術検定3級				必修 ○ 選択
授業概要	パターン制作の作図理論から始まり、各種アイテム、ディテールの基本作図、各種シルエットの展開方法やパターン操作を学ぶ。また、工業用パターンを制作する上で必要な知識と、企画に基づく知識を身につける。後期はパターンメーティング技術検定3級に合格することを目標とする。				
学習成果	①	服の部位のデザインを捉え、作図する能力を養う。	成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果 80 %
	②	パターンメーティング検定3級に合格する能力を養う。		2	提出物/期限遵守 %
	③	パターンを学び、服の構造を理解した上で仕様書の作成が出来る。		3	独創性/習熟度 10 %
	※	人の動作による寸法の変化、ゆとりを考慮して作図出来る力を養う。		4	意欲・授業態度 10 %
使 用 材	●文化ファッショントekニカル科：服飾造形講座①②③④、誌上パターン塾vol.1・2・3・4・5 ●パターンメーティング技術検定試験3級ガイドブック ●作図道具一式				

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-6	線の引き方、エプロン製図1/4作図、縫い代の付け方1/4作図、エプロン実物作図	直線の引き方、定規使用に慣れる。ソーイングに連動したパターン作成。
2	7-11	キュロットスカート1/4作図、縫い代付け1/4作図、実物作図及び工業用パターン	当襟の引き方。ソーイングに連動した工業用パターン作成。
3	12-21	ボトム原型とは、ボトム原型ドレーピング、ダーツとは	原型とは何か、ダーツとは何かについて学ぶ。平面作図と立体作図違いを学ぶ。
4	22-29	スカート基本原型、セミタイトスカート1/4作図、実物工業用パターン	歩行と腰周り寸法の関係、動作による寸法の変化(ゆとり)。ソーイングに連動したパターン作成。
5	30-37	トップス原型とは、衣料パターン表示記号、原型操作(ダーツの分割)	パターンを引く上で必要な原型操作、及びJIS記号を覚える。
6	38-51	身頃基本(ダーツの移動、展開)、前あきブラウス(ノーカラー・ノースリーブ)1/4作図、実物工業用パターン	ダーツの移動、ブラウスの構造を学ぶ。ソーイングに連動したパターン作成。
7	52-57	ブラウス1/4・1/2作図及び縫い代付け(シャツブラウス・ヨークギャザー・ダイヤモンドダーツ・衿・袖の組合せ)	ブラウスの構造、及びデザイン変化の基本的なパターンの引き方。
8	58-63	衿各種(スタンド、シャツ、フラット、ボータイ、セーラー)1/4作図、3種実物作図	トップス、衿各種のパターン、及び衿応用作図。
9	64-76	袖各種(セットイン、パフ、ドロップ、フレア、キャップ、カフス付き)1/4作図、3種実物作図	トップス袖各種基本パターン、及びデザイン変化応用作図。
10	77-87	台衿付き長袖シャツ1/4作図・縫い代付け(反転処理)、実物作図及び工業用パターン	7・8・9を習得した上で、ソーイングに連動した工業用パターン作成。
11	88-93	ギャザー、サーキュラー、ティアード、ギャザーフレアースカート1/4作図	前期の復習として、スカートの応用を学ぶ。
12	94-109	衿ぐり各種(スクウェア、V、ポート、ラウンドネック)1/4作図、衿各種自由課題(実物パターン、シーチング型出し)	前期の復習として、衿の応用パターンを引き型出しをする。
13	110-114	ノート整理、まとめ	復習、及びノート整理。
14	115-124	女児ワンピース、腹ぐせダーツ展開(ハイウエスト、ローウエスト、Aライン)1/4作図	成人原型と子供原型の違いを学び、トップスとボトムスの組み合わせでワンピースが出来ることを学ぶ。
15	125-142	文化祭作品 子供服1、2着目1/4作図	上記までの学習を活かし、文化祭での作品の1/4作図をする。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-4	文化祭作品 子供服1、2着目実物作図	前期15の実物作図、ファーストパターン作成。
2	5-12	文化祭作品 子供服1、2着目実物作図、及び型出し・補正	後期1のシーテングでの型出し、及びパターン修正。
3	13-16	原型型出し・補正	成人女子体型を元に自分体型に合った原型を作成。
4	17-21	テーラードカラーの引き方1/2作図、表衿・見返し展開、セットインスリーブいせ計算	テーラードカラーを学ぶ。衿原型の復習。
5	22-28	テーラードジャケット（アウトポケット・2枚袖）1/4作図	ソーイングに連動したジャケットの1/4作図、及びアウターのゆとりを学ぶ。
6	29-33	テーラードジャケット（アウトポケット・2枚袖）実物作図	ソーイングに連動したジャケットの実物作図。
7	34-43	テーラードジャケット（アウトポケット・2枚袖）型出し・パターンチェック・工業用パターン	ソーイングに連動したジャケットの型出し、修正、及び工業用パターン、違い代付け（反転処理）を学ぶ。
8	44-86	パターン検定筆記・製図過去問題、技術検定対策、グレーディングの基礎	パターン検定3級受験のための対策。型出し練習。
9	87-79	タイトスカート（ベンツあき・裏地付き）1/4作図、実物作図	ジボケットのパターンを学ぶ。衿ぐり袖ぐり続見返しを学ぶ。ソーイングに連動したベストの実物作図。
10	80-86	タイトスカート（ベンツあき・裏地付き）裏地パターン作図1/4作図 及び 実物作図	ベンツパターンを学ぶ。裏地用パターンを学ぶ。ソーイングに連動したタイトスカートの実物作図。
11	87-123	4面構成テーラードジャケット1/4作図、パターンチェック、工業用パターン、裏地・芯地パターン	4面構成テーラードジャケットを学ぶ。ジャケットの裏地パターンを学ぶ。ソーイングに連動したジャケットの実物作図。
12	124-142	4面構成テーラードジャケット実物作図、型出し、パターンチェック、工業用パターン、裏地・芯地パターン	ワンピースのシルットの変化。デザインライン、ダーツ処理を学ぶ。
13	143-149	大人ワンピース（基本型・パネル・プリンセス・ハイウエスト・Aライン）	2年次の卒業記念展に向けた、ボトム用パターンを学ぶ。
14	150-153	タイトスカートからのスカート展開（ペッグトップ・ヒップボーン・ゴアード・部分プリーツ・マーメイド）1/4作図	1年次まとめ。
15	154-157	ノート整理	ソーイングに連動した早挂いブラウスのパターン作成。裁断のための工業用パターン、ノッチの重要性を学ぶ。
その他 (授業に際しての注意点)		パターンは苦手意識が多く、目に見えての達成感がないので自らが興味を持って取り組むことで苦手意識を克服出来、検定合格にもつながると考える。1本のラインの加減で立体になった時の変化に気付き、そこに面白さを感じることが出来れば2年次につながる。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		1年			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、パターンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。							
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年	学期		
種 別	服飾造形		授業方法	講義	△	演習 ○ 実習		
授業科目	ドレーピング I		授業時間数	前期	後期	15 計 15		
担当教員	野田部 寛之		職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッショントekニカル科協会パートンメーティング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。						
資格検定						必修 選択		
授業概要	ドレーピングに関する基本的な知識、技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれることのない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。そしてアイテム、デザイン別にシルエットを作り、布目の重要性、ボディとパターンの関係性、ドラフティングの仕方などの平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。							
学習成果	① ダーツの特性を理解する。 ② アイテム毎のドレーピングの習得。 ③ ドラフティングの習得。 ※ ディテール各種のドレーピングを習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	20 % 60 % 20 %	%		
使 教 材	●文化ファッショントekニカル科 大系 アパレル生産講座③							

後期授業計画(10月-3月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	トップス(ボックススローパー)	前・後・前後合わせ	ボディの形状を読み取りながら、体の構造(骨格、筋)の理解を深め、立体的な前、後ろ身頃を作成することが出来る。また、バランスよく前後身頃を合わせることが出来る。
2	3-4	トップス(ボックススローパー)	ドラフティング・再組み立て	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。ドラフティング後に、再組み立てを行いトワル完成させ最終チェックを行う。
3	5-6	トップス(タイトスローパー)	前・後・前後合わせ	ボディの形状を読み取りながら、体の構造(骨格、筋)の理解を深め、立体的な前、後ろ身頃を作成することが出来る。また、バランスよく前後身頃を合わせることが出来る。
4	7-8	トップス(タイトスローパー)	ドラフティング・再組み立て	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。ドラフティング後に、再組み立てを行いトワル完成させ最終チェックを行う。
5	9-10	ボトムス(タイトスカート)	前・後	ボディの形状を読み取りながら、体の構造(骨格、筋)の理解を深め、立体的な前、後ろスカートを作成することが出来る。
6	11-12	ボトムス(タイトスカート)	前後合わせ	ボディの形状を読み取りながら、体の構造(骨格、筋)の理解を深め、バランスよく前後スカートを合わせることが出来る。
7	13-14	ボトムス(タイトスカート)	ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
8	15	ボトムス(タイトスカート)	再組み立て・まとめ	ドラフティングしたパターンを基にトワルに写し取り、再組み立てを行いトワルを完成させ最終チェックを行う。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、トワルに触れながらトレンドの分析を行い自己研鑽することが望ましい。また、演習内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら作品制作が出来ることが望ましい。とくに、ボディーとトワルを注視しながら、自己の主觀や審美眼でアイテム作り上げる感性と、布目を見ながらピン打ちする技術の反復練習が必要である。			

授業科目等の概要																														
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 1年																													
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。																													
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期																		
種別	服飾造形					授業方法	講義	○	演習	△	実習	○																		
授業科目	ソーイング I					授業時間数	前期	215	後期	224	計	439																		
担当教員	江端 由恵					職業実践専門課程：企業との連携				○																				
※実務家教員	○	洋服リメイク企業にて縫製、接客、運営の実務経験を活かし、エンドユーザーの求める衣服とは何か、他者が求めるものづくりの大切さを教授する。																												
資格検定																														
授業概要	衣服制作をする上で欠かすことの出来ない基礎的な縫い方、ミシン縫製、アイロン仕上げの方法を学び、ディティール実習、部分縫いを繰返し行いながら、衣服の縫製技術を習得する。																													
学習成果	① 服作りのための基礎的な技術を身につける。 ② 素材によって仕様は多様にあることを知り、その技術を学ぶ。 ③ 反復する事で作業効率を考え、仕上げる事が出来るようになる。 ※ 唯一無二の技術力を目指すための基礎を作る。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守		30 %																	
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナルプリント配布 ●ソーイングセット、シーチング、各アイテムの生地																													

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-10	ミシン基礎縫い、ブックカバー（直線・内外角・内外カーブ×3）		工業用ミシンに慣れる。出来上がり縫い代の関係を学ぶ。
2 11-20	エプロン裁断・縫製		工業用ミシンに慣れ、アイロン掛けの基礎を学ぶ。
3 21-37	キュロットスカート裁断・縫製		ロックミシンに慣れ、カーブが縫えるようになる。パターンの寸法通りに仕上げる。
4 38-50	手縫いの基礎（まつり類・ボタン付け）		制作物においてボタン付け等、ミシンで出来ない部分を学ぶ。
5 51-65	フラットニットファスナー、ウエストベルト付け部分縫い×2、セミタイトスカート裁断・縫製		フラットニットファスナー付け、スカートベルト付けを学ぶ。
6 66-74	縫い代の始末7種、		素材の厚みや風合いの変化によって、始末の方法が変わることを学ぶ。
7 74-90	ノーカラー ノースリーブブラウス裁断・縫製		ブラウスの構造を踏まえダーツの縫い方、見返しの付け方を学ぶ。
8 91-99	フラットカラー、スタンドカラー、シャツカラー部分縫い 衿ぐりの始末 部分縫い		衿の構造、衿付けの方法を3種習得し、デザインや素材によって縫い方が変わることを学ぶ。 衿ぐり、衿ぐりがつづきの見返しの学習。
9 100-110	袖口カフスあき3種（見返し・持ち出し・短冊あき×2）		袖口カフスあきを習得。素材・デザイン・コスト等で縫製仕様を変えることを学ぶ。
10 111-137	台衿付き長袖シャツ（シャツスリーブ・短冊あきカフス）裁断・縫製		7・8・9の技術を活かし、実用的なブラウス制作で達成感を得る。
11 138-142	コンシールファスナー、ワンピース後ろ衿ぐり、スプリングホック部分縫い×2		コンシールファスナー付け習得、後ろ衿ぐりの見返し付けを学ぶ。
12 143-155	フリル、フレアー、ギャザー、タック、シャーリング、バイピング、額縁縫い		ディテール、バイピング等を習得し、どんなデザインにも対応出来る技術を身に付ける。
13 155-167	シームポケット、斜め切り替えポケット部分縫い		文化祭での子供服を制作するにあたり、基本的なポケットを学ぶ。
14 167-171	ファイルまとめ		実習ファイルの整理、仕様書、パターン、作品（写真）を揃える。
15 172-215	文化祭作品 子供服裁断・縫製		前段で学んだ技術を活かし、子供の成長や動き、オケージョンに合わせた仕様で制作する。

後期 授業 計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-27	文化祭作品 子供服作品裁断・縫製	既製の物を解体することで、仕様や工程を学ぶ。
2	28-31	カーブ縫合、角縫合×5	局寸逆カーブ、角縫合は、次のアイテムであるジャケットに必要な技術である。
3	32-44	職業実践 トライアル裁断・縫製、本番裁断・縫製	実際に商品となる物を扱うことで、緊張感を持ち技術レベルを上げる。
4	48-59	前期衿付け部分縫いに各種袖を付ける（セットインスリーブ、パフスリーブ）	セットインスリーブ、長さの違う逆カーブの場合は、次のアイテムであるジャケットに必要な技術である。
5	60-75	テーラードカラー部分縫い	テーラードカラー、3つ止めを学ぶ。
6	76-111	一重テーラードジャケット裁断・芯貼り・縫製	1年次最後の裏付き3面構成ジャケットの練習も兼ねる。
7	112-121	穴かがり手かがり	注文履1級検定に向けて手穴かがりを学ぶ
8	122-133	箱ポケット	身頃本体に切り込みを入れるポケットは、市場に多いので身に付ける。
9	134-143	フラップポケット	
10	144-153	裏付きパッチポケット2種	ウール素材に良く使用されるポケットなので身に付ける。
11	154-163	裏付きベンツ、ウエストベルト付け、オーダー仕立て切りじつけ	裏地の扱いに慣れる。ベンツの構造を学ぶ。
12	164-235	裏付き4面構成テーラードジャケット（2枚袖・フラップポケット）裁断・芯貼り・縫製	ウール素材の扱いに慣れる。2枚袖、フラップポケットの習得。
13	236-243	裏付きベンツあきタイトスカート、後ろ中心ファスナー（仮縫い含）	オーダー仕立て、切りじつけ、仮縫い等を学ぶ。
14	244-251	裏付き4面構成テーラードジャケット（2枚袖・フラップポケット）裁断・芯貼り・縫製	ウール素材の扱いに慣れる。2枚袖、フラップポケットの習得。
15	252-255	まとめ（工程分析表・仕様書・実物パターン・写真セット）	制作するにあたり工程分析表、縫製仕様書、実物パターンは必須。
その他 (授業に際しての注意点)		初心者もいるため、前期では難しいかもしれないが、多くの者はメーカーの商品に携わることになるので、売れるか売れないかの判断基準が重視されることになるため、後期では自己基準ではなく客観視が必要となる。作業態度では肘をつく、脚を組んでの作業、座ったままでのアイロンは、効率的にも技術面においても影響を及ぼすので注意を促す。	

授業科目等の概要

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 1年															
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。															
分類	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年	○	前期	後期						
種別	流通・販売					授業方法	講義	△	演習	実習						
授業科目	市場調査 I					授業時間数	前期	8	後期	8 計 16						
担当教員	江端 由恵					職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	○	洋服リメイク企業にて縫製、接客、運営の実務経験を活かし、エンドユーザーの求める衣服とは何か、他者が求めるものづくりの大切さを教授する。														
資格検定											必修					
授業概要	市場で販売されている既製服を実際に販売店舗を訪れて、どのような縫製仕様や着心地になっているのかを調査する。また価格の違いによる縫製仕様の違い、素材・付属品の違い等を調査し、今後制作するソーイング課題や作品作りに活かすとともに、将来の仕事にも繋げていけるよう平面画や縫製仕様付きのレポートにまとめる。															
学習成果	① 市場の既製服の縫製仕様を理解する。 ② 平面画や縫製仕様を書けるようにする。 ③ 市場調査の効果、役割を理解する。 ※ 素材や価格に見合った縫製仕様を考える。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守	80 %						
使用教材	●KFDオリジナルプリント配布															

前期授業計画 (4月-9月)

前期授業計画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	福岡市内の生地屋調査	福岡市内の生地屋を訪問し、どのような素材や付属・手芸用呂があるか、生地屋ごとにどのような特徴があるのかを調査し、理解する。
2	2	業態調査	福岡市内の百貨店や商業施設等を訪問し、どのような営業形態のものがあるのかを調査し、理解する。
3	3	既製服・スカート調査	制作物であるスカートの市場で販売されている縫製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。
4	4	既製服・ブラウス調査	制作物であるブラウスの市場で販売されている縫製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。
5	5	既製服・衿（部分）調査	市場で販売されているアイテムの衿について縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
6	6	既製服・袖（部分）調査	市場で販売されているアイテムの袖について縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
7	7	既製服・袖口あき（部分）調査	市場で販売されているアイテムの袖口あきの縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
8	8	ハンドワーク作品調査	ハンドワーク作品を制作する上で市場で販売されているハンドワークの技法を調査し作品製作に活かす。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	既製服・子供服(文化祭作品)調査	文化祭制作物である子供服の市場で販売されている既製仕様・デザイン・素材を調査・理解し、作品制作に活かす。
2	2	既製服・ディテール(部分)調査	市場で販売されているアイテムのディテール(フリル・タック・ギャザー・パイピングなど)の既製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
3	3	既製服・縫い代の始末(部分)調査	市場で販売されているアイテムの縫い代の始末の仕様を調査し、理解する。
4	4	既製服・シルエット調査	市場で販売されているワンピースなどのシルエットを調査し、分類できるようにする。
5	5	既製服・ベスト調査	制作物であるベストの市場で販売されている既製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。
6	6	既製服・ジャケット調査	制作物であるジャケットの市場で販売されている既製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。
7	7	既製服・ポケット調査	市場で販売されているアイテムの切り込みのあるポケットの既製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
8	8	まとめ	提出したレポートをファイルにまとめ・整理し、復習作業をする。
9	9		
10	10		
11	11		
12	12		
13	13		
14	14		
15	15		
その他 (授業に際しての注意点)		市場で販売されている色々な既製服の縫製仕様はもちろんのこと、それを表現できる平面画や仕様の絵を丁寧に描き、相手に伝わりやすいようにする。また、ショップ定員とコミュニケーションをはかり、売れ筋や商品のポイントを聞き、実際に着用できるものは出来るだけ試着をし、着心地等にも気を配る。	

学 科		授業科目等の概要															
		服飾専門課程					ファッションテクニカル科					1年					
D P/ 学科人材 育成像		学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、パターンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。															
分 類		必修	○	選択		配当年次	1 年	学 期	通年	○	前期	後期					
種 別		流通・販売		授業方法		講義	○	演習	○	実習							
授業科目		ビジネスマナー		授業時間数		前期	30	後期	30	計	60						
担当教員		畠山 未来		職業実践専門課程：企業との連携													
※実務家教員		○ 20年間、企業・官公庁にて、経営企画・財務会計・経理・総務・人事・営業にて責任者として従事。企業の経営・組織マネジメントや人材育成にも多く携わってきた。現在、専門学校や日本語教育・企業研修を通して、社会の戦力となる人材の育成に注力している。						必修		選択							
資格検定																	
授業概要	学生から社会人へと自己意識を変革させる。働くことの意味を真に理解し、ビジネスパーソンに必要な「考え方・行動・技術」を身に付けるために以下3つの能力を習得することを目標とする。 ・論理的思考能力、表現力、考える力、書く力、スピーチ力 ・企業における組織のしくみやPDCA・ホウレンソウなどの仕事の進め方 ・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー（挨拶・お辞儀・敬語・訪問・来客・電話・文書）																
	① 論理的思考能力（表現力・考える力・書く力・スピーチ力）を身に付ける。		成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		70	%								
学習成果	② 企業の仕組みや仕事の進め方を理解する（PDCA・ホウレンソウ）。		2 提出物/期限遵守		10	%											
	③ コミュニケーションスキル、ビジネスマナーを習得する。		3 独創性/習熟度			%											
※		社会人に必要な「考え方・行動・技術」を習得する。															
使 教 用 材		●社会で生きる 実践ビジネスマナー ●ビジネスマナー基礎実習 新版															

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習	
1 1-2 オリエンテーション（アイスブレーキング・自己紹介・ビジネスマナーとは・ゴール提示・会社が求める人材像）			ゴールを提示し、これから何を考え、勉強していくのかを明確にする。会社が求める人材像を提示することにより、目標設定がしやすくなる。	
2 3-4 社会人とは（社会人と学生の違い）、仕事をすることの意味とは			社会人と学生の違いを自ら考えることで認識し、社会人になる心構えができるようになる。仕事の意味を問うことで、自分で答えを見つけていく。	
3 5-6 挨拶、お辞儀、身だしなみ（メラビアンの法則、身だしなみとおしゃれの違い）			基本的な挨拶、お辞儀、身だしなみを習得し、社会に通用するマナーを身に付ける。	
4 7-8 プレゼンテーション・スピーチの基本（表現力、伝える力、人前で話す力、発表練習）			プレゼンテーションの基本を学び、伝えることの意義を理解する。グループディスカッション形式で自分の意見を人前で発表できるよう練習を実施する。	
5 9-10 論理的思考能力【考える力】の養成（マインドマップ・ロジックツリーの作成）			考える力を養うために、會くことを練習する。會くことができれば、論理的思考を生み出すことができ、最終的には発話が上達するようになる。	
6 11-12 論理的思考能力【表現力・書く力】の養成（小論文のルール・書き方、小論文提出）			論文の書き方における一定のルールを学び、今後、機会が増えていくレポート作成やスピーチ、プレゼン、面接の場面で活用し、役立てるようになる。テーマを決めて、小論文を書くことを課題とし、提出する。	
7 13-14 言葉遣いの基本（敬語、クッショニ言葉、間違った日本語）			敬語の基本的な形から場面に応じた敬語、ビジネス敬語を取り入れる。ビジネスで必要なクッショニ言葉や間違った日本語の遣い方も習得する。	
8 15-16 電話のかけ方・受け方、訪問のマナー			演習を交えながら、一般的な電話の応対からビジネスで使う電話の応対までを習得する。	
9 17-18 企業・組織とは（組織の仕組み、PDCAサイクル、チームワーク、指示系統）			企業における組織とは何か、仕事の進め方はどうしたらしいか、指示系統はどうなっているのか、チームワークの大切さとは、を学び、理解する。	
10 19-20 仕事の進め方 報告・連絡・相談1			仕事の進め方の基本であるホウレンソウを実例を交えながら説明。実際に自身のアルバイトに活かすことで、真のホウレンソウを理解し、習得する。	
11 21-22 仕事の進め方 報告・連絡・相談2			仕事の進め方の基本であるホウレンソウを実例を交えながら説明。実際に自身のアルバイトに活かすことで、真のホウレンソウを理解し、習得する。	
12 23-24 コミュニケーションスキルを磨く（傾聴トレーニング）1			現代コミュニケーションにおける苦手意識を克服するために、最も重要な取り入れやすい「積極」にスポットをあてる。コミュニケーションの真の意味を理解し、最終的には「発話」にもつなげていくようになる。	
13 25-26 コミュニケーションスキルを磨く（傾聴トレーニング）2			現代コミュニケーションにおける苦手意識を克服するために、最も重要な取り入れやすい「積極」にスポットをあてる。コミュニケーションの真の意味を理解し、最終的には「発話」にもつなげていくようになる。	
14 27-28 プレゼンテーション演習（テーマに沿って考えをまとめ、発表する）			あらかじめテーマを決め、テーマに沿って自分の考えや主張をまとめる。成果として、クラスの中で発表し、評議・フィードバックを行う。	
15 29-30 総まとめ 試験対策			前回の総復習と試験対策を行い、学んだ知識を定着させる。	

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	オリエンテーション（アイスブレーキング・ゴール提示）	後期のゴールを提示し、これから何を考え、勉強していくのかを明確にする。
2	3-4	履歴書・エントリーシートの書き方1（ルール、項目の意味、表現方法）	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
3	5-6	履歴書・エントリーシートの書き方2（ルール、項目の意味、表現方法）	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
4	7-8	自己PR・志望動機のための自己分析（マインドマップ・ロジックツリー作成）	自己PR・志望動機で、正しく自分を知ってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。ここでは、マインドマップとロジックツリーを作成することで、自己的信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。
5	9-10	自己PR・志望動機のための自己分析（自分史作成）	自己PR・志望動機で、正しく自分を知ってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。ここでは、マインドマップとロジックツリーを作成することで、自己的信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。
6	11-12	自己分析から自己PRへ（PREP法）	4・5回目で作成した自己分析の結果から、自己PRへ展開する手法を学習する。文章の作成後、PREP法に分解し、実際に履歴書内に書き込んでいく。
7	13-14	グループディスカッション1	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の資質に合った貢献や振る舞いができる能力を身に付け、チームワークの重要性を理解する。
8	15-16	グループディスカッション2	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の資質に合った貢献や振る舞いができる能力を身に付け、チームワークの重要性を理解する。
9	17-18	面接指導（挨拶、お辞儀、入退室マナー、立ち居振る舞い）、ロールプレイ、手紙・メールの書き方	面接における挨拶、お辞儀、言葉遣い、立ち居振る舞いを学び、入退室マナーの流れを理解する。入退室のロールプレイ・フィードバックを通して、所作や全体の流れ、自己的な問題を認識する。
10	19-20	プレゼンテーション演習1	プレゼンテーションの復習後、テーマに沿って自分の考えや主張をまとめる。成果として、クラスの前で発表し、評価・フィードバックを行う。
11	21-22	プレゼンテーション演習2	プレゼンテーションの復習後、テーマに沿って自分の考えや主張をまとめる。成果として、クラスの前で発表し、評価・フィードバックを行う。
12	23-24	模擬面接1（課題・付加価値の認識、改善、フィードバック）	模擬面接での適切な言葉遣い、表情、立ち居振る舞い、声の大きさなど実践的なマナーへの理解・習熟。評価シートにより、面接官と自己による評価を実施し、現状認識と改善策をフィードバックする。
13	25-26	模擬面接2（課題・付加価値の認識、改善、フィードバック）	模擬面接での適切な言葉遣い、表情、立ち居振る舞い、声の大きさなど実践的なマナーへの理解・習熟。評価シートにより、面接官と自己による評価を実施し、現状認識と改善策をフィードバックする。
14	27-28	模擬Web面接（課題・付加価値の認識、改善、フィードバック）	模擬面接での適切な言葉遣い、表情、立ち居振る舞い、声の大きさなど実践的なマナーへの理解・習熟。評価シートにより、面接官と自己による評価を実施し、現状認識と改善策をフィードバックする。
15	29-30	総まとめ 試験対策	後期の松復習と試験対策を行い、学んだ知識を定着させる。
その他 (授業に際しての注意点)		当授業においては、「教室」を「戦場」とみなし、挨拶を怠らず、発言・行動するように心がける。日々の考え方・行動が習慣を変え、人生を変えていくので、授業で気になったことや疑問に思ったことは、後回しせずにすぐに質問すること。課題は提出期限を厳守。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。											
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		
種別	総論				授業方法	講義	○	演習	○	実習		
授業科目	服飾造形論Ⅱ				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30	
担当教員	野田部 寛之				職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。										
資格検定							必修			選択		
授業概要	プロダクト全般に関する仕事を理解して、製造工程、縫製工程、効率的品質の安定を図った縫製方法や生産管理に関する知識や技術、縫製機器やアタッチメントの取り扱い、服飾付属品関連知識、素材の種類や生地の特性に対応した裁断、印付け、芯貼り、縫製、補正に関する知識、技術を習得することを目標とする。											
学習成果	① 素材の特性を理解する。 ② 歩留まりの高い生産工程を理解する。 ③ 用途に合わせた縫製仕様を理解する。 ※ アパレル生産のスキルの習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		60	%	2	提出物/期限遵守	20	%
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●KFDオリジナル実習プリント配布											

前 期 授 業 計 画 (4月~9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1~2	パンツ 素材の知識、裁断、芯貼り、裏地の据え方、ポケット		パンツに適した素材の特性を理解し、地の目を通した裁断をする。縫製仕様に沿ながら、必要なゆとり分量や表地を考慮する。裏地の形状と位置を把握し、ポケット各種も構造と縫製法の理解を深める。
2	3~4	パンツ ファスナー明き、ベルト		パンツの明きについて、ファスナーとの構造並び縫製法と、ベルト各種のパターンと縫製法の理解を深める。
3	5~6	パンツ 縫い代、縫製法、アイロンのかけ方、補正法、まとめ		素材やパンツの形状に適した縫い代が付けられる知識と、体の形状とパターンを考慮したアイロン割りや、くせ取りの理解を深める。また、修正法に関しての知識を深める。
4	7~8	既製服仕立てのコート 素材について、裁断、芯貼り、裁ち出し袖		素材に基づき、地の目を通した裁断を行う。芯貼りについては適した形状で接着できる知識を身につける。パターンの一連の知識を含ませながら身頃と袖の関係性や裁ち出しに関する組み立て方を理解する。
5	9~10	既製服仕立てのコート 前明き、ポケット、裾始末、ボタン		外衣としての明きの種類と構造の理解を深めながら、縫製法を理解する。また、ポケット各種においても構造と縫製法の理解を深める。
6	11~12	既製服仕立てのコート 縫製法、アイロンのかけ方、補正法		アパレル縫製に適した縫製法を学びながら、素材に合わせた糸と針の選定方法を知り、合理的で品質の高い縫製法とアイロンのかけ方の理解を深める。体型によるパターンの修正法を追求する。
7	13~14	カット&ソーン 素材の知識、裁断、テープ貼り		素材の特性（伸縮性）を理解しながら、地の目を通した裁断を行う。テープ貼りは必要な場所に貼る知識を身につける。
8	15	カット&ソーン 縫製法、アイロンのかけ方		素材の特性（伸縮性）を理解しながら、素材によるミシン機器と縫製、アイロンのかけ方の理解を深める。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	職業実践専門課程製品制作 素材の知識、裁断、テープ貼り、縫製法、アイロンのかけ方	素材の特性を理解しながら、地の目を通した裁断を行う。テープ貼りは必要な場所に貼る知識を身につける。素材によるミシン機器と縫製、アイロンのかけ方の理解を深める。
2	3-4	職業実践専門課程製品制作 素材の知識、裁断、裏地の据え方	素材の特性を理解し、縫製仕様と素材に考慮しながら、裏地に必要なゆとり分量と縫い代つけが出来る。裏地の形状と位置を把握しながら組合の理解を深める。
3	5-6	特殊素材(レザー)のジャケット 明き、縫い代、どんぐり仕立て方	レザーの特性を理解し、裁断をする。縫製仕様と素材に考慮しながら、裏地に必要なゆとり分量と縫い代つけが出来る。裏地の形状と位置を把握しながら組合の理解を深める。
4	7-8	特殊素材(レザー)のジャケット 縫製法、縫い代の処理、補正法	外套としての明きの種類と構造の理解を深め、縫製法を理解する。素材に合わせた縫い代幅の設定と縫製順位に従ったマシンメイドによる縫合法を学ぶことで、効率的な制作の理解を深める。
5	9-10	特殊素材(レース)のトップス 素材の知識、裁断、芯据え、裏地の据え方	レースの特性を理解し、地の目や柄を通した裁断をする。そして、芯据えについてには必要な場所に適した形状で行える知識をもつ。裏地の形状と位置を把握しながら組合の理解を深める。
6	11-12	特殊素材(レース)のトップス 明き、縫い代、縫製法、アイロンのかけ方、補正法	明きの種類と構造及び縫製法の理解を深める。また、柄模や透け感を踏まえた縫い代付けや始末を行うことが出来る。バックカーリング(縫い跡)を起こさない縫い方を知り、合理的な縫製法の理解を深める。
7	13-14	特殊素材(レース)のスカート 縫製法、アイロンのかけ方	素材に合わせた、糸と針の選定方法と縫い目ビッチ、バックカーリング(縫い跡)を起こさない縫い方を知り、合理的な縫製法とアイロンのかけ方の理解を深める。
8	15	特殊素材(レース)のスカート 明き、ベルト付け、まとめ	ファスナーの明きについて、ファスナーとの構造並び縫製法と、ベルト付けによる縫製法の理解を深める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、素材についての基礎知識や新聞等で出てくる新しい素材の扱いを知ることや、商品仕様の観察を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解することが望ましい。また、製品制作における重要な知識となるため、常に復習することを推奨するとともに、実際に制作したものと授業で習得した知識を比較検討しながらノートに追加していくことが望ましい。		

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントekニカル科		2年																	
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、パターンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。																					
分 類	必修	○	選択	配当年次	2 年	学 期																
種 別	総論		授業方法		講義	○																
授業科目	アパレル素材 II		授業時間数		前期	15																
担当教員	山崎 菜穂子		職業実践専門課程：企業との連携																			
※実務家教員	○	洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。																				
資格検定						必修																
選択						選択																
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要不可欠な知識である「テキスタイル」。2年次では、アパレル素材に関する原料・糸・組織・仕上げ・意匠などの基礎知識を学び、素材に応じてファッション衣料の取り扱いが出来る技能を身に付ける。また、基礎知識を活かしたテキスタイル制作や作品制作をおこない、技術の習得に励む。																					
学習成果	<p>① アパレル素材に関する基礎知識を習得。</p> <p>② 基礎知識を活かし、習得した素材のサンプル作品を制作する。</p> <p>③ テキスタイル産地・特徴の理解する。</p> <p>※ 素材に応じた衣料の取り扱いが出来るようになる。</p>			成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)		<table border="1"> <tr> <td>1</td><td>定期試験結果</td><td>60</td><td>%</td></tr> <tr> <td>2</td><td>提出物/期限遵守</td><td>10</td><td>%</td></tr> <tr> <td>3</td><td>独創性/習熟度</td><td>10</td><td>%</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意欲・授業態度</td><td>20</td><td>%</td></tr> </table>	1	定期試験結果	60	%	2	提出物/期限遵守	10	%	3	独創性/習熟度	10	%	4	意欲・授業態度	20	%
1	定期試験結果	60	%																			
2	提出物/期限遵守	10	%																			
3	独創性/習熟度	10	%																			
4	意欲・授業態度	20	%																			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化学園 文化事業局 テキスタイルハンドブック ●服地の基本がわかる テキスタイル事典 ●KFDオリジナルプリント配布 																					

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	織糸の組織と特徴		股作りの材料となる生地を横糸の組織から勉強し、布帛生地の組織構造と 縦糸方、特徴を理解する。
2	3-4	織り物テキスタイル制作	小テスト（素材の基本）	手織り機を使用し、三原組織を自ら織ることで、織り物の組織・特徴を理解する。
3	5-6	ニット（編み）の組織と特徴		アパレル市場においてかかせないニット（編み）の組織を勉強し、ニット 地の組織構造と編み方、特徴を理解する。
4	7-8	ニット（編み）テキスタイル制作	小テスト	基本的な棒針編みをおこない、ニット（編み）の組織・特徴を理解する。
5	9-10	捺染の技法と特徴、ステンシル	小テスト	捺染（プリント）の技法の種類・特徴を学ぶことで、捺染素材の種類を見 分ける能力を身に付ける。
6	11-12	捺染作品制作、染色		捺染技法の一つを用いて、作品を制作し理解を深める。
7	13-14	テキスタイル産地、染色（絞り染め+作品制作）	小テスト	日本に数多くあるテキスタイル産地より、国内でメジャーな産地・素材・ テキスタイル・技法などを学び、日本国内の素材の理解を深める。後期の 最後にそれぞれ研究した産地の発表をする。
8	15	まとめ、前期試験対策	小テスト	前期でのプリントやノートの整理・復習をする。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	加工技術、小テスト（前期復習）	進歩していくテクノロジーにより、アパレル素材としての価値を高める加工技術が日々生まれ出されている。その種類・性能を知ることにより、アパレル素材への理解を深める。
2	3-4	製品の取り扱い方（洗濯表示）、小テスト	JISからISO規定へと変わった洗濯表示を勉強し、製品の取り扱いを理解する。
3	5-6	製品の取り扱い方（染み抜き）、小テスト	製品の取り扱いで一番身近な染み抜きについてシミの種類や特徴を学び、それに即した染み抜き方法や溶剤を理解する。
4	7-8	オパール加工、小テスト	加工技術の一つである「オパール加工」を実践的に理解する。
5	9-10	皮革の特徴	犛牛から出来る素材のほかに、動物からとれる皮革や毛皮の種類や特徴を学び理解する。
6	11-12	皮革作品制作	皮革（牛革）を使用し、小物製作をおこなう。カットや床面・縫（コバ）の処理の仕方や皮革の基本的な扱い方を実践的に理解する。
7	13-14	テキスタイル産地研究発表1	前回から研究していたテキスタイル産地の発表をおこない、他の発表も聞くことで他の産地の情報を得ることが出来る。
8	15	テキスタイル産地研究発表2・まとめ・後期試験対策	前回から研究していたテキスタイル産地の発表をおこない、他の発表も聞くことで他の産地の情報を得ることが出来る。後期でのプリントやノートの整理・復習・試験対策をする。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		就職した際に企業や工場で困らないよう、ソーイング授業での制作物以外の生地に多く触れてほしい。そして、日々の生活でも服飾学生としてアパレル素材に目を向けてほしい。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。											
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期
種別	企画				授業方法	講義	△	演習	○	実習	○	計
授業科目	プロデュースショーⅡ				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60	
担当教員	野田部 寛之				職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターーンメーキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。										
資格検定					必修			選択				
授業概要	今まで学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメーキング、縫製技術を駆使しながら卒業記念展に向けた作品制作を行うことを目的とする。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、フィッティングから作品のメンテまで一括した品質管理能力を身につける。											
学習成果	① テキスタイルとシルエットの表現力を身につける。 ② 縫製工程を考え、クオリティの高い製品制作を目指す。 ③ フィッティング及びメンテナンスのスキルや知識を習得する。 ※ 現場において突発的な事に対処できる柔軟な姿勢を身につけていく。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守		20	%
使用教材	●スタイリスト&コーディネートの条件											

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ファッショショニストに向けての取り組み方について	
2	3-4	テキスタイルについて	
3	5-6	テクニックについて	
4	7-8	テキスタイル研究	
5	9-10	シルエットについて	
6	11-12	ヴィジュアルボード制作	
7	13-14	サンプル制作	
8	15-16	トレンド分析	
9	17-18	シルエット分析	
10	19-20	デザイン発想	
11	21-22	パターン研究	
12	23-24	トワル表現	
13	25-26	トワルチェック	
14	27-28	トワル修正	
15	29-30	パターンチェック、まとめ	

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	実物テキスタイル材料準備1	サンプルテキスタイルを基に、材料の調達を行いマーキングによる必要な要尺を割り出す。コストやそれにかかる日数を割り出し計画する。
2	3-4	実物テキスタイル材料準備2	材料の調達を進めながら、付属品の選別を経てテキスタイル制作の前準備に入念に行う。また、不足すると思われる材料の人手先をリサーチする。
3	5-6	実物テキスタイル制作1	準備した材料を基に、サンプル通りに作り上げていく。品質にムラが出ないように作業性と一定のリズム、集中力を保つようにする。そして、作業にかかる時間のロスを改善しながら進めていく。
4	7-8	実物テキスタイル制作2	定期的にテキスタイルの品質を確認しながら必要なバーツ数と段らし合わせながら制作する。さらに作業の効率化を図りながら改善する力を身につけていく。
5	9-10	実物裁断1	布目や柄地を見ながら、正確に裁断していく。また、修正が入る箇所には多めに縫い代をとり戻縫い時の修正に対応する。マーキングを行う上で歩留まりの高い管理能力を身につける。
6	11-12	実物裁断2	定期的に他の目や柄地を見ながら裁断を行っていく。品質にムラが出ないように作業性と一定のリズム、集中力を保つようにする。そして、作業にかかる時間のロスを改善しながら進める。
7	13-14	作品印付け1	バーツ毎に印を入れていくことで、整合性の取れた服になる。また布目が落ち着く服になるので、布目を見る力を身につけることができる。
8	15-16	作品印付け2	細かなバーツまで印付けを行い、全てがパターン通りになっているかをチェックする。正確さと作業性を身につける。
9	17-18	作品仮縫い1	布目を見ながら不要なしづわを作らないように縫合していく。シルエットを崩さないように縫い代幅を検討し、出来上がりのイメージを持って作業をしていく。
10	19-20	作品仮縫い2	全体の縫い上がりを見ながら微調整を行い、複数仕様を組み立てながら全体のバランスを確認していくことで調整力を身につける。
11	21-22	作品制作1	仮縫いで組み上げた作品の整理を行い、出来映えとしてベストな縫合を行っていく。とくに、縫い代の始末や副資材の導入を考慮しながら進めていく。
12	23-24	作品制作2	他の小物の選別を行い、イメージ、コンセプト、カラー、素材感、全体のバランスとをみながら組み合わせことで、コーディネート力を身につける。
13	25-26	コーディネート	全体のアイテムの調和をとりながら、服のシルエット、着丈、ディテール、小物の修正を行い作品を完成させる。
14	27-28	スタイリング	早着替えのための着脱や吊りひもを準備する。また、モデルの着脱後に作品の不具合がないか、アイロンでしわを取り除くメンテナンスまで作品の管理能力を身につける。
15	29-30	フィッティング、メンテナンス、まとめ	授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、トレンドに触れながらの創作活動を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自分で理解しながら作品制作が出来ることが望ましい。ほかに、グループでのディスカッションを行いチームとしてプロジェクトを遂行していくことを推奨する。2月に行われる卒業記念展としてグループで作品発表を行う。
その他 (授業に際しての注意点)			

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。														
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期			
種別	パソコン				授業方法		講義	△	演習	○	実習	△			
授業科目	アパレルCAD I				授業時間数	前期		30	後期	30	計	60			
担当教員	白濱 由佳理				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	○	アパレル企業で培ったCADバタンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。													
資格検定									必修			選択			
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながらパターンマジックのメニューの基本操作を習得する。後期からは前期で習得したメニューを使用して、パンツの作図をする。それに準じたマーキング・行程分析・縫製仕様書を作成し、工場に送り出す前の作業の流れを把握する。また企業バタンナーが実務として行っているような、有型からのデザイン展開に取り組む。														
学習成果	① 東レクレアコンポのアパレルCADの基本操作を身につける。 ② パターンを理解した操作方法を覚えていく。 ③ アパレルCADに慣れ、工業用パターンを作図できるようになる。 ※ 手引きより早く操作できるアパレルCADに慣れ基本操作を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守			%		
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	アパレルCADとは	東レクレアコンポのCADソフトの導入。線の引き方から理解をする。
2	3-4	ダーツの移動1	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
3	5-6	ダーツの移動2	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
4	7-8	ダーツの移動3	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
5	9-10	ダーツの移動4	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
6	11-12	ダーツの移動5	ダーツ展開今までに使用した操作方法を復習しながら個人で作業を進める。ここで基本操作である線の引き方から、展開の一覧をマスターする。
7	13-14	タイトSKからセミタイトSKへ展開	タイトスカートの展開で基本操作をより理解させる。パターンチェックもここで初めて操作し覚える。
8	15-16	セミタイトSKからブリーツSKへ展開1	切り替えがあるパターンを制作し、ブリーツを入れる操作を理解する。
9	17-18	セミタイトSKからブリーツSKへ展開2	切り替えがあるパターンを制作し、ブリーツを入れる操作を理解する。
10	19-20	タイトSKからゴアードSKへ展開	切り開く寸法を把握し、ゴアードスカートへ展開する。
11	21-22	タイトSKからマーメイドSKへ展開1	線をコピーし、素早く作図できる方法を習得し、パターンチェックのスキルを上げる。
12	23-24	タイトSKからマーメイドSKへ展開2	線をコピーし、素早く作図できる方法を習得し、パターンチェックのスキルを上げる。
13	25-26	確認テスト対策1	これまでのCADの基本操作を反復学習し、より理解を深めさせる。
14	27-28	確認テスト対策2	これまでのCADの基本操作を反復学習し、より理解を深めさせる。
15	29-30	確認テスト・まとめ	今までの理解度を把握する。プリントも見ず確認テストをすることで、苦手な部分も把握できる。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	確認テスト復習・裏地パターンの作成	確認テストの間違った部分を把握し、より上達できるように復習させる。また、裏地パターンの作成の手順を理解する。
2	3-4	工業用パターンの作成	工業用パターン作成の手順を理解する。
3	5-6	縦い代つけ練習	縦製仕様に即した縦い代の付け方を理解する。
4	7-8	有型からのデザイン展開1	企業でよく行われている有型からの展開を行い、実践力を身につける。
5	9-10	有型からのデザイン展開2	企業でよく行われている有型からの展開を行い、実践力を身につける。
6	11-12	有型からのデザイン展開3	企業でよく行われている有型からの展開を行い、実践力を身につける。
7	13-14	有型からのデザイン展開4	企業でよく行われている有型からの展開を行い、実践力を身につける。
8	15-16	平面画(制作物)の作成・行程分析表の作成	工程表に添付する平面図もCADで描く。また、ソーリングで制作したレザージャケットの工程分析表をCADで入力。一度制作したものを見直し、効率を考えた工程表を作成する。
9	17-18	行程分析表の作成	ソーリングで制作したアイテムの工程分析表をCADで入力。一度制作したものを見直し、効率を考えた工程表を作成する。
10	19-20	制作物のアイテムをスキヤナで取り込む・取り込んだデータの修正	ソーリングで制作したアイテムをCADスキヤナで取り込み、修正する。
11	21-22	取り込んだパターンデータ(制作物)の修正1	ソーリングで制作したアイテムをCADスキヤナで取り込み、修正する。
12	23-24	取り込んだパターンデータ(制作物)の修正2	ソーリングで制作したアイテムをCADスキヤナで取り込み、修正する。
13	25-26	マーキング	東レケラコンボのマーカーマジックを使用し、無駄なくマーキングをする。操作方法も理解させる。
14	27-28	グレーディング	東レケラコンボのグレーディングを使用し、タイトスカートのサイズ展開をしてみる。
15	29-30	復習・まとめ	まとめとして基本操作の総復習を行う。
その他 (授業に際しての注意点)		パソコン操作に慣れた学生は、やや習得が早く見受けられるが、パターンの基礎能力が基となるためパターンマークを理解した上でCADを操作することが好ましい。前期試験をする際に練習を沢山することにより、習熟度が高くなる。また、後期では各種アイテムのパターンマークを十分理解しておく必要がある。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期	
種別	服飾造形					授業方法	講義	○	演習	△	実習	△	
授業科目	パターンメーリングⅡ					授業時間数	前期	90	後期	90	計	180	
担当教員	野田部 寛之					職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメーリング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。											
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメーリング技術検定試験2級							必修	○	選択			
授業概要	人体の基本構造、体型を理解しながら立体的な服の設計が出来るスキルを身につける。また服種別、シルエット各種のパターンメーリングを習得すると共に素材に応じて、ゆるみや厚み分を考慮したパターン展開法を身につけて、生産に向けた量産パターン（縫い代付け、合印、グレーディング）の知識、技術を習得する。												
学習成果	①	ダーツの特性を理解する。			成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		60	%			
	②	アイテム毎のパターンメーリングの習得。				2	提出物/期限遵守		10	%			
	③	量産パターンの習得。				3	独創性/習熟度		10	%			
	※	サイズ展開を含めたアパレルパターンを理解する。				4	意欲・授業態度		20	%			
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●KFDオリジナル実習プリント配布												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習			
1	1-6	パンツ ストレート、スリム、ワイド、ベルボトム、フレアー、マスターパターン		パンツに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのパンツの作図法を習得する。			
2	7-12	パンツ パターンチェック、工業用パターン（明き、ポケット、カーブベルト）、まとめ		量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。また、明き、ポケット、カーブベルト等の構造の理解を深める。			
3	13-18	身頃各種		体の構造を理解しながら、ダーツの分散やアイテムによる適切なダーツを作ることができる知識の理解を深める。			
4	19-24	グレーディング		アパレル生産に向けたサイズ展開法、ブロック式グレーディングやネスト図など各部位によるグレーディングピッチを理解する。			
5	25-30	衿各種		様々な衿の作図法と縫製技術を考慮した衿の作図法を取得しながら、衿の構造や素材による展開法を理解する。			
6	31-36	袖各種		様々な袖の作図法と縫製技術を考慮した袖の作図法を習得しながら、袖の構造や素材による展開法を理解する。			
7	37-42	工業用パターン		量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を進めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。			
8	43-48	カーブドラペル、ショールカラー、ナポレオンカラー		テーラードカラーの変形作図を、立体を交えながら構造の理解を深める。とくに、見返しの一枚裁ちでは工業用パターンも含めて理解する。			
9	49-54	裁ち出し衿、まち		裁ち出しの作図法と縫製技術を考慮した衿やまちの作図法を習得しながら、衿の構造や素材による展開法を理解する。			
10	55-60	コート ポックス、ラグラン、ルダンゴト、フレアー、キモノ		コートに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのコートの作図法を習得する。			
11	61-66	コート 工業用パターン、比翼明き、ポケット各種		量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。また、明きやポケットの構造の理解を深める。			
12	67-72	コート ファースト、マスターパターン作成		実物サイズでのコートの平面製図を行う。実際にトワルで組みながらパターン修正を行い、マスターパターンに落とし込んでいく、実物大の感覚を身につける。			
13	73-78	コート 工業用パターン作成		コートの量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった、完成度の高い工業用パターン法を習得する同時に、実物大の感覚を身につける。			
14	79-84	カット&ソーン 身頃、袖、衿		伸縮素材の特徴を考慮しながらカット&ソーンの作図法の理解を深める。布帛と同じように原型を使用していくが、ゆとり分量を取り除きながら製図が出来るように進める。			
15	85-90	カット&ソーン マスター、工業用パターン作成		伸縮素材、及びミシン機器の特徴を考慮しながらカット&ソーンの作図法の理解を深める。素材や縫製順位に従った完成度の高い工業用パターン法を習得すると同時に実物大の感覚を身につける。			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-6	文化祭製品 ファーストパターン作成	素材の特性に合わせ、機能的なアイテムの作図法を身につける。
2	7-12	文化祭製品 マスターパターン作成	各デザインに応じ、アームホールと袖、衿ぐりと衿の整合性を取りながら、マスターパターンへ落とし込んでいき、実物大の感覚を身につける。
3	13-18	文化祭製品 パターンチェック、工業用パターン	実物サイズでの工業用パターンを作成。縫製仕様を確認し、素材の特性を考慮しながら工業用パターンへ落とし込む。
4	19-24	卒業記念展作品ファーストパターン作成	卒業記念作品のパターンを引き、独創的でデザイン個通りのツールになるようにトライしながら完成度を高めていく。
5	25-30	卒業記念展作品ファーストパターン作成	卒業記念作品のパターンを引き、独創的でデザイン個通りのツールになるようにトライしながら完成度を高めていく。
6	31-36	卒業記念展作品パターン修正	ツールが出来上がって着心地を確かめながら、外観の美しさと機能性、縫製時の整合性までチェックしながら全体の構成の確認を行う。
7	37-42	卒業記念展作品パターン修正	ツールが出来上がって着心地を確かめながら、外観の美しさと機能性、縫製時の整合性までチェックしながら全体の構成の確認を行う。
8	43-48	卒業記念展作品マスターパターン作成	実物サイズでのマスターパターンを作成。外観的な美しさや、素材の特性、縫製可能なパターンへと落とし込む。
9	49-54	卒業記念展作品マスターパターン作成	実物サイズでのマスターパターンを作成。外観的な美しさや、素材の特性、縫製可能なパターンへと落とし込む。
10	55-60	卒業記念展作品工業用パターン作成	実物サイズでの工業用パターンを作成。ツールで縫製仕様を確認し、素材の特性を考慮しながら工業用パターンへ落とし込む。
11	61-66	卒業記念展作品工業用パターン作成	実物サイズでの工業用パターンを作成。ツールで縫製仕様を確認し、素材の特性を考慮しながら工業用パターンへ落とし込む。
12	67-72	ケープ・フード各種	ケープ・フードに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのケープ・フードの作図法を習得する。
13	73-78	薄物 各種	透ける素材に必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのドレスの作図法を習得する。
14	79-84	薄物 ファースト、マスターパターン作成	実物サイズでの透ける素材の平面裁図を行う。実際にツールで組みながらパターン修正を行いマスターパターンへ落とし込む。そして、実物大の感覚を身につける。
15	85-90	薄物 工業用パターン作成、まとめ	量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがって完成後の高い工業用パターン作成法を習得する。
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、パターンについての基礎知識やコレクションで出てくるシルエットやフォルムを知ることや商品仕様の観察を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解することが望ましい。また、製品制作における重要な知識となるためにノートをとることを推奨するとともに、実際に制作したものとを比較検討しながらノートに追加していくことが望ましい。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科		2年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バウンサー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。						
分類	必修	○	選択	配当年次	2年	学期	
種別	服飾造形		授業方法	講義	△	演習	
授業科目	ドレーピングⅡ		授業時間数	前期	23	後期	
担当教員	野田部 寛之		職業実践専門課程：企業との連携		23	計 46	
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。					
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定試験2級		必修	○	選択		
授業概要	ドレーピングに関する基本的な知識、技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれることのない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。そしてアイテム、デザイン別にシルエットを作り、布目の重要性、ボディとパターンの関係性、ドラフティングの仕方などの平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。						
学習成果	① ダーツの特性を理解する。 ② アイテム毎のドレーピングの習得。 ③ ドラフティングの習得。 ※ ディテール各種のドレーピングを習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%	
使用教材	●文化ファッション大系 アパレル生産講座③		2	提出物/期限遵守		%	
			3	独創性/習熟度		%	
			4	意欲・授業態度		%	

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	トップス1 前、後	トップスに必要なゆるみ分量を加えながら、ダーツの位置や分量を処理しながら前、後身頃を制作する。
2	3-4	トップス1 オフ、袖	トップスの衿ぐりと衿付けの関係性を読み取りながら、整合性のとれたドレーピング法を身につける。アームホールと袖山の関係をくみ取りながら、前振りになった衿の理解を深める。
3	5-6	トップス1 ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
4	7-8	タイト・セミタイトスカート 前、後、ドラフティング	スカートに必要なゆるみ分量を加えながら、ダーツの位置や分量、股の横斜を捉えながら前、後スカートを制作する。トワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込み、ドラフティングの理解を深める。
5	9-10	フレアスカート 前、後、ドラフティング	スカートに必要なゆるみ分量を加えながら、ダーツをたたみ、股の横斜を捉えながら前、後スカートを制作する。トワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込み、ドラフティングの理解を深める。
6	11-12	ヨーク切り替えギャザースカート 前、後	体の構造を理解しながらヨーク位置を決め、ギャザー分量を捉えながら前後スカートを制作することが出来る。
7	13-14	ヨーク切り替えギャザースカート ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
8	15-16	マーメイドスカート 前、後	体の構造を理解しながらマーメードのフレア分量を捉え、前後スカートを制作することが出来る。
9	17-18	マーメイドスカート ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
10	19-20	ラブ・オフ	紙製服からパターンを起こすラブ・オフ法の理解を深める。
11	21-23	ラブ・オフ ドラフティング	ラブ・オフしたパターンを修正しマスターパターンに落とし込む。パート同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	トップス2 前、後	デザインを読み取りながら、体の構造の理解を深め構造線やデザイン的な要素の前、後身頃を作成することが出来る。
2	3-4	トップス2 ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。バーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
3	5-6	トップス2 前、後、ドラフティング	デザインを読み取りながら体の構造の理解を深め、構造線やデザイン的な要素の前身頃を作成することが出来る。組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。
4	7-8	袖各種	デザインを読み取りながら体の構造の理解を深め、構造線やデザイン的な要素の前身頃を作成することが出来る。組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。
5	9-10	袖各種 ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。バーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
6	11-12	透ける素材 トップス 前身頃	素材の垂れ感を考慮しながら体の凹凸を読み取り、身頃との整合性の理解を進める。構造線やデザイン的なシルエットを作成することが出来る。
7	13-14	透ける素材 トップス 後ろ身頃	素材の垂れ感を考慮しながら体の凹凸を読み取り、身頃との整合性の理解を進める。構造線やデザイン的なシルエットを作成することが出来る。
8	15-16	透ける素材 トップス ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。バーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
9	17-18	ディテール1・2	ディテールの構造を読み取りながら、身頃との整合性の理解を進め構造線やデザイン的なディテールを作成することが出来る。
10	19-20	ディテール3	ディテールの構造を読み取りながら、身頃との整合性の理解を進め構造線やデザイン的なディテールを作成することが出来る。
11	21-23	ディテール4 ドラフティング、まとめ	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面図に落とし込む。バーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、トワルに触れながらトレンドの分析を行い自己研鑽することが望ましい。また、演習内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら作品制作が出来ることが望ましい。とくに、ボディーとトワルを注視しながら自己の主観や審美眼でアイテム作り上げる感性と布目を見ながらピン打ちする技術の反復練習が必要である。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科		2年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。						
分類	必修	○	選択	配当年次	2年	学期	
種別	服飾造形		授業方法	講義	△	演習	
授業科目	ソーイングⅡ		授業時間数	前期	277	後期	
担当教員	野田部 寛之		職業実践専門課程：企業との連携		○		
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、股のプロダクトについてのノウハウを教授する。					
資格検定	技能検定2級 婦人子供服注文服製作作業		必修		選択	○	
授業概要	バタンナーやデザイナーの意図をくみ取り、縫製仕様書に従い裁断した生地を、素材特性や柄などに配慮しつつ、ミシン作業、アイロン作業、最終仕上げまで各種部分縫いを交えながらより良い製品を作る技術を習得する。また、薄地素材、伸縮素材、ウール地など様々な素材に対応しながらアパレル縫製技術をマスターすることを目標とする。						
学習成果	① アパレル縫製の習得。 ② アイテム毎の縫製スキルの習得。 ③ 素材別縫製スキルの習得。 ※ 作業性と完成度の高い製品作りを目指す。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%	
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦		2	提出物/期限遵守		%	
		3	独創性/習熟度		60	%	
		4	意欲・授業態度		20	%	

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-18	パンツ 前明き、ポケット縫製	素材の特性を理解しながら、ボトム前明き、ポケットの縫製法の理解を深める。ピンを使わない能率的な縫製を習得する。
2	19-37	ディテール部分縫い	素材の特性を理解しながら、コートのポケット、比翼仕立ての縫製を習得する。
3	38-56	コート 裁断、前工程1	ウール地の特性を理解し、地の目を通した裁断、芯貼りで温度、圧力、時間を考慮しながら接着する。縫製時に必要な印を入れ縫製前の準備の理解を深める。ピンを使わない能率的な縫製を習得する。
4	57-75	コート 裁断、前工程2	ウール地の特性を理解し、地の目を通した裁断、芯貼りで温度、圧力、時間を考慮しながら接着する。縫製時に必要な印を入れ縫製前の準備の理解を深める。ピンを使わない能率的な縫製を習得する。
5	76-94	コート ポケット縫製1	ウール地の特性を理解し、バランス、合理的なポケットを作成。正確な裁断と縫製、アイロン作業で完成度の高い仕上げ技術を習得する。
6	95-113	コート ポケット縫製2	ウール地の特性を理解し、バランス、合理的なポケットを作成。正確な裁断と縫製、アイロン作業で完成度の高い仕上げ技術を習得する。
7	114-132	コート 表地縫製	素材の特性を理解しながら、表身頃（ダーツ、切り替え）の縫製法の理解を深める。ピンを使わない能率的な組合、シルエットの成形と縫製を習得する。
8	133-151	コート 裏地縫製	素材の特性を理解しながら、裏見頃（ダーツ、切り替え）の縫製法の理解を深める。ピンを使わない能率的な組合、シルエットの成形と縫製を習得する。
9	152-170	コート 表、裏合わせ1	表地と見返しの合わせ方、中とじ、どんぐり仕立て、ふらし仕立ての理解を深めながら、表身頃に刷毛染む合わせ方を習得する。
10	171-189	コート 表、裏合わせ2	表地と裏見頃の合わせ方、中とじ、どんぐり仕立て、ふらし仕立ての理解を深めながら、表身頃に刷毛染む合わせ方を習得する。
11	190-208	コート まとめ、仕上げ	素材の特性を理解しながら、アイロンでの仕上げ工程の理解を深める。縫製時に現れるツレをアイロンで消し去ることで完成度の高い仕上げ技術を習得する。
12	209-227	カット&ソーン 裁断、前工程（衿、ヘムの仕上げ）	ニットの特性を理解しながら、マークインを行い地の目を通した裁断が出来るように進める。そして、縫製時に必要な箇所は印を入れながら、縫製前の準備の理解を深める。
13	228-246	カット&ソーン 縫製、まとめ、仕上げ	ニットの特性を理解しながら、インターロックによる縫製法の理解を深める。そして、肩平縫いによる襟始末や縫製時に現れるツレをアイロンで消し去ることで、完成度の高い仕上げ技術を習得する。
14	247-265	職業実践専門課程1	現場での縫製手順に沿って、アイテムを作成し工場縫製の理解を深める。芯貼り、テープ貼り、縫製、プレスなど合理性の高い技術を習得する。
15	266-277	職業実践専門課程2	現場での縫製手順に沿って、アイテムを作成し工場縫製の理解を深める。芯貼り、テープ貼り、縫製、プレスなど合理性の高い技術を習得する。

後期授業計画(10月-3月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-18	職業実践専門課程3		裏地の取り扱い方、まとめや仕上げの工程、検品まで。縫製仕様書と照らし合わせながら正確な品質管理能力を習得する。
2	19-37	職業実践専門課程4		裏地の取り扱い方、まとめや仕上げの工程、検品まで。縫製仕様書と照らし合わせながら正確な品質管理能力を習得する。
3	38-56	文化祭製品		売上などの製品制作を行い、高品質な商品を目指す。
4	57-75	卒業記念展作品制作1		グループ毎、コンセプト、イメージに沿ってテキスタイルを制作していく。基準としての技法を習得する。
5	76-94	卒業記念展作品制作2		グループ毎、コンセプト、イメージに沿ってテキスタイルを制作していく。基準としての技法を習得する。
6	95-113	卒業記念展作品制作3		グループ毎、コンセプト、イメージに沿ってテキスタイルを完成させる。全てのパターンが収まる用尺まで作り上げ、最初と最後のクオリティが同じになるよう経験力を身につける。
7	114-132	卒業記念展作品制作4		グループ毎、コンセプト、イメージに沿ってテキスタイルを完成させる。全てのパターンが収まる用尺まで作り上げ、最初と最後のクオリティが同じになるよう経験力を身につける。
8	133-151	卒業記念展作品制作5		グループ毎、制作したテキスタイルを裁断する。地の目の方性、デザイン圖と照らし合わせながら、効率的な裁断法を習得する。
9	152-170	卒業記念展作品制作6		グループ毎、制作したテキスタイルを裁断する。地の目の方性、デザイン圖と照らし合わせながら、効率的な裁断法を習得する。
10	171-189	卒業記念展作品制作7		グループ毎、コンセプト、イメージに沿ってテキスタイルを完成させる。全てのパターンが収まる用尺まで作り上げ、最初と最後のクオリティが同じになるよう経験力を身につける。
11	190-208	卒業記念展作品制作8		グループ毎、裁断した地の目と合印を確認しながら、途中で出来映えをチェック出来る感覚と正確さを身につける。
12	209-227	卒業記念展作品制作9		グループ毎、組合した作品の修正を行なながら完成させる。各パーツやアイテムのバランスを読み取り、縫製とアイロン操作の技術を習得しながら作品の完成度を上げる。
13	228-246	卒業記念展作品制作10		グループ毎、組合した作品の修正を行なながら完成させる。各パーツやアイテムのバランスを読み取り、縫製とアイロン操作の技術を習得しながら作品の完成度を上げる。
14	247-265	特殊素材（レース）トップス 裁断、前工程（明き各種）		素材の特性を理解しながら、通じづけなどのキューブル的な裁断法の理解を深める。レース布と土台布の扱い合わせかたの技術を習得する。
15	266-277	特殊素材（レース）トップス 縫製、仕上げ、まとめ		素材の特性を理解しながら、身頃の（ダーツや切り替え）縫製法の理解を深める。レース布と土台布の成形と縫製を習得する。
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、素材についての基礎知識や部分違いによる学習、市場での縫製仕様を自己で研究することが望ましい。また、実習内容に対しても積極的に質問を行い、自分で理解しながら作品制作が出来、常に技術の向上が図れるように品質と時間管理能力のスキルを身につけることが望ましい。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程										ファッションテクニカル科				2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野における設計や製造に関する高度な知識・技術・技能を有する「唯一無二の多能工が可能な縫製士」を育成する。クリエイティブを具現化できる洋裁士、バタンナー、ソーイングオペレーターなど「物作り」のスペシャリストを目指す。																									
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期				後期												
種別	流通・販売										授業方法	講義	○	演習	△	実習										
授業科目	市場調査Ⅱ										授業時間数	前期	15	後期	15	計 30										
担当教員	野田部 寛之										職業実践専門課程：企業との連携															
※実務家教員	○	全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。										必修		選択												
資格検定																										
授業概要	製品を作るうえでの、アイテム毎のトレンドのシルエット・デザイン・ディテール・素材・配色・糸番手等を調査し、ソーイングやパターンメーキングで制作するアイテムに活かしていく。また、製品に対する素材の取り扱い方や仕立て方に理解を深めながら、縫製仕様書やパターンに反映出来るようにアパレル製造の技能を身に付ける。																									
学習成果	① リサーチと考察力の習得。 ② 用途に合わせた縫製仕様を理解する。 ③ パターン分析力の向上。 ※ アパレル製造の技能習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)				1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守		20	%											
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●ファッションディクショナリー ●文化出版局アパレル素材論															3 独創性/習熟度 60 % 4 意欲・授業態度 20 %										

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習	
1	1-2	パンツリサーチ（調査）	市場に出ているパンツを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。	
2	3-4	パンツリサーチ（レポート）	市場に出ているパンツの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。	
3	5-6	コートリサーチ（調査）	市場に出ているコートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。	
4	7-8	コートリサーチ（レポート）	市場に出ているコートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。	
5	9-10	カット＆ソーンリサーチ（調査）	市場に出ているカット＆ソーンを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。	
6	11-12	カット＆ソーンリサーチ（レポート）	市場に出ているカット＆ソーンの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。	
7	13-14	文化祭展示内容リサーチ（調査）①	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等について理解を深める。	
8	15	文化祭展示内容リサーチ（調査）②	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等について理解を深める。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	アップサイクル製品リサーチ(調査)	市場に出ているアップサイクル製品のアイテムを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
2	3-4	アップサイクル製品リサーチ(レポート)	市場に出ているアップサイクル製品を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について考察してレポートにまとめる。
3	5-6	文化祭展示内容リサーチ(レポート)、まとめ	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場の調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等を考察してレポートにまとめる。
4	7-8	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ(調査)①	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
5	9-10	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ(調査)②	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
6	11-12	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ(レポート)	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
7	13-14	レース素材ワンピース、スカートリサーチ(調査)	市場に出ているレース素材のワンピース、スカートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
8	15	レース素材ワンピース、スカートリサーチ(レポート)、まとめ	市場に出ているレース素材のワンピース、スカートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、市場を見ながらトレンドを分析、トレーニングすることを推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自分で理解しながらレポートとして独自の考察を導入することが望ましい。ほかに、多くの商品に触れたり着用することで、素材の質感や着心地、フォルムのバランスを感じ取りながら調査することを推奨する。	